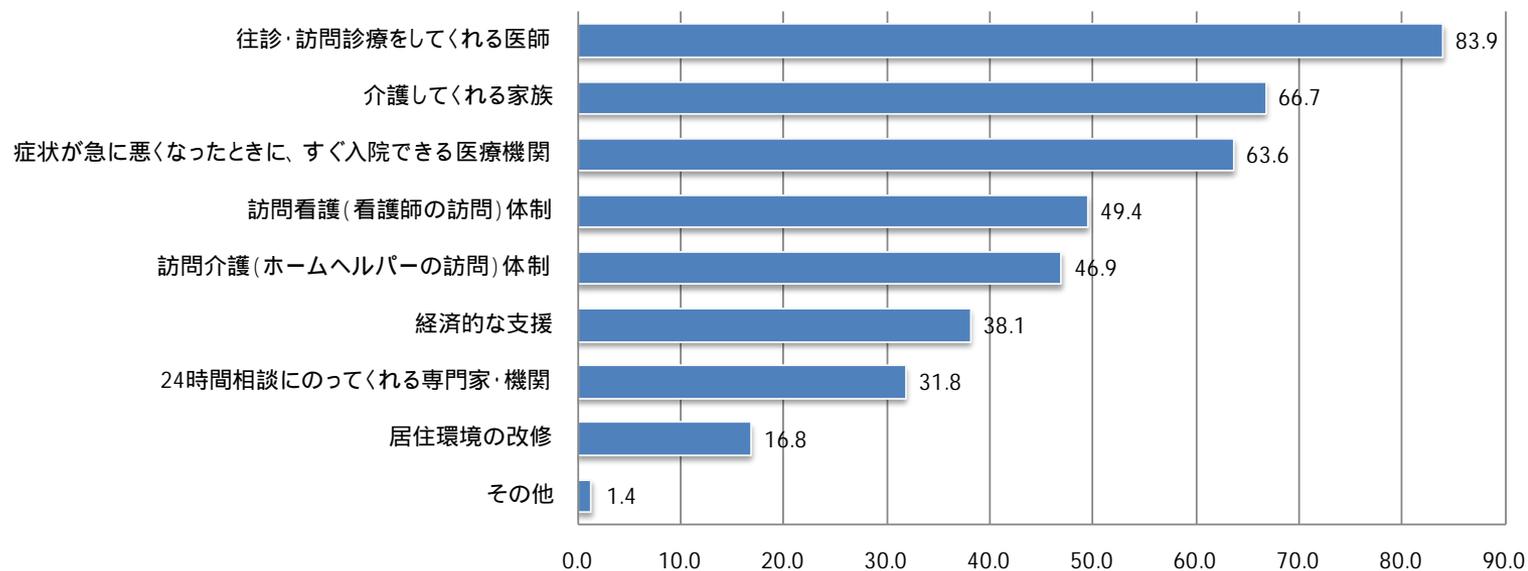


在宅医療に関する患者意識

寝たきりに近い状態になった場合、どこで療養生活を送りたいか



自宅で最後まで療養するために必要なこと

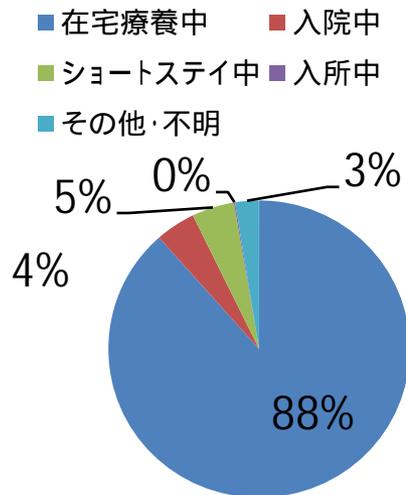


在宅療養者における褥瘡の実態

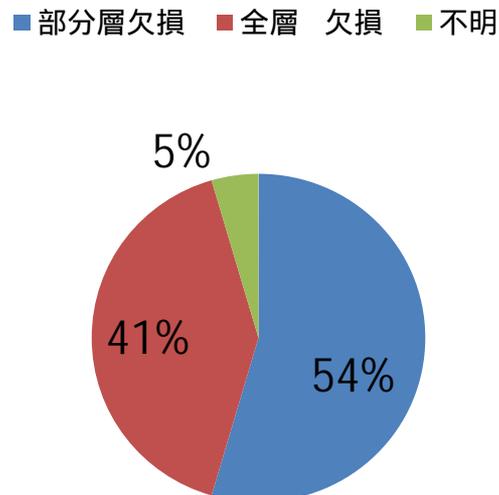
在宅療養患者における 褥瘡有病率 7.2% 発生率 4.5%

(病院、介護保険施設における有病率はそれぞれ2.5～5.2%、3%と比べて高い。)

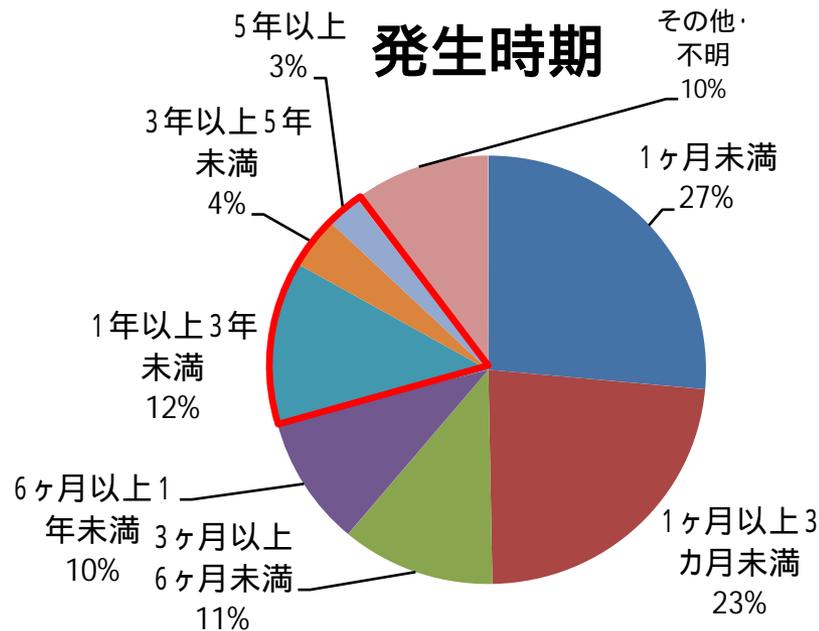
発生場所



深達度



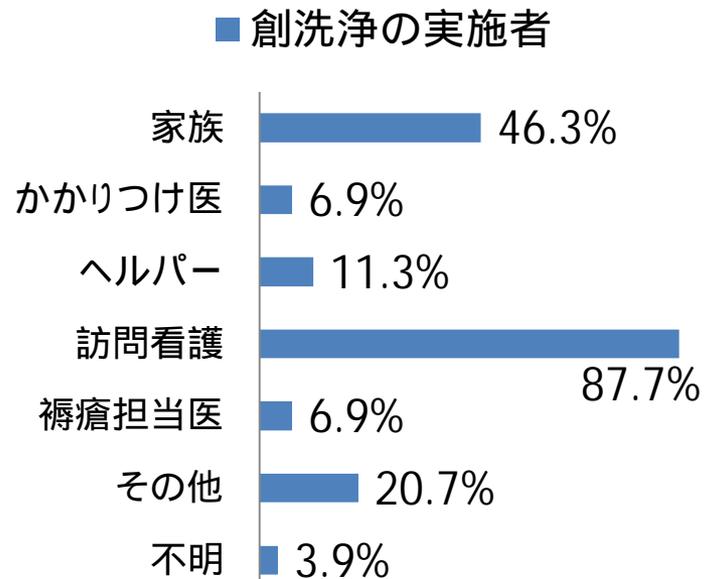
発生時期



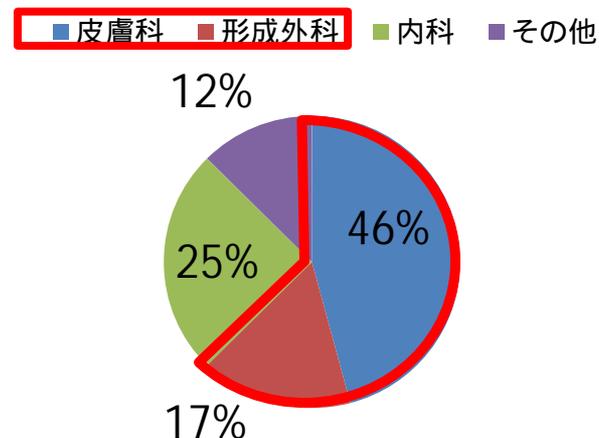
- 在宅療養患者の褥瘡のうち約90%は在宅療養中に発生
- 褥瘡のうち皮下組織まで達している深い褥瘡(全層欠損)は41%
- 発生から1年以上経過している褥瘡が18.6%である。

在宅療養者における褥瘡管理

深い褥瘡の局所管理



深い褥瘡 褥瘡担当医の診療科



- ・深い褥瘡管理においても家族、ヘルパーが実施しているものが46.3%,11.3%である。
- ・褥瘡担当医のうち約6.5割は皮膚科又は形成外科であった。

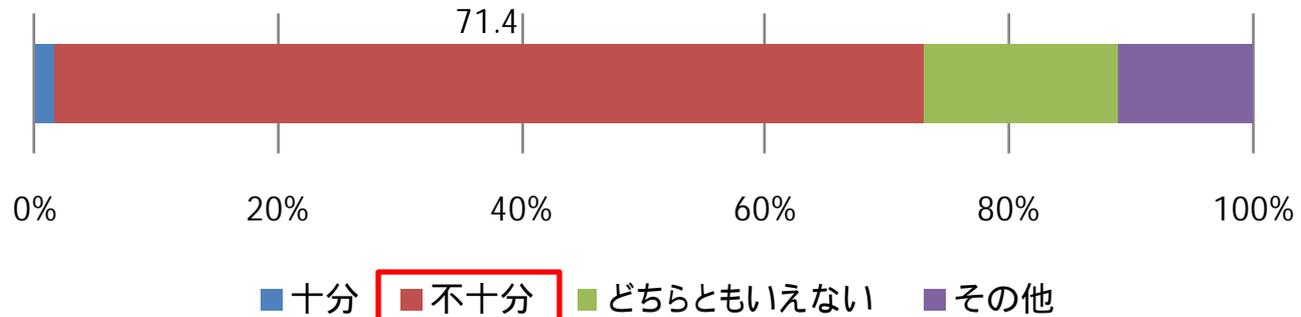
【皮膚科医師の早期介入】

皮膚科専門医の介入群(皮膚科医が往診)と非介入群(主に内科医の往診)とで比較したところ、介入群で褥瘡がより改善した。(DESIGN総点*の減少)

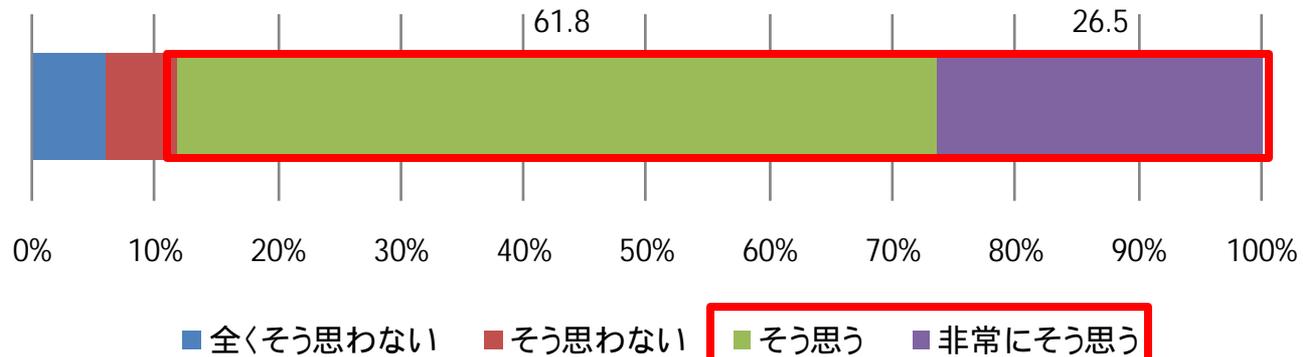
*DESIGNは褥瘡の深さ、浸出液、サイズ等をもって、褥瘡の状態を示す指標

小児在宅医療の提供状況

小児在宅医療の充足状況

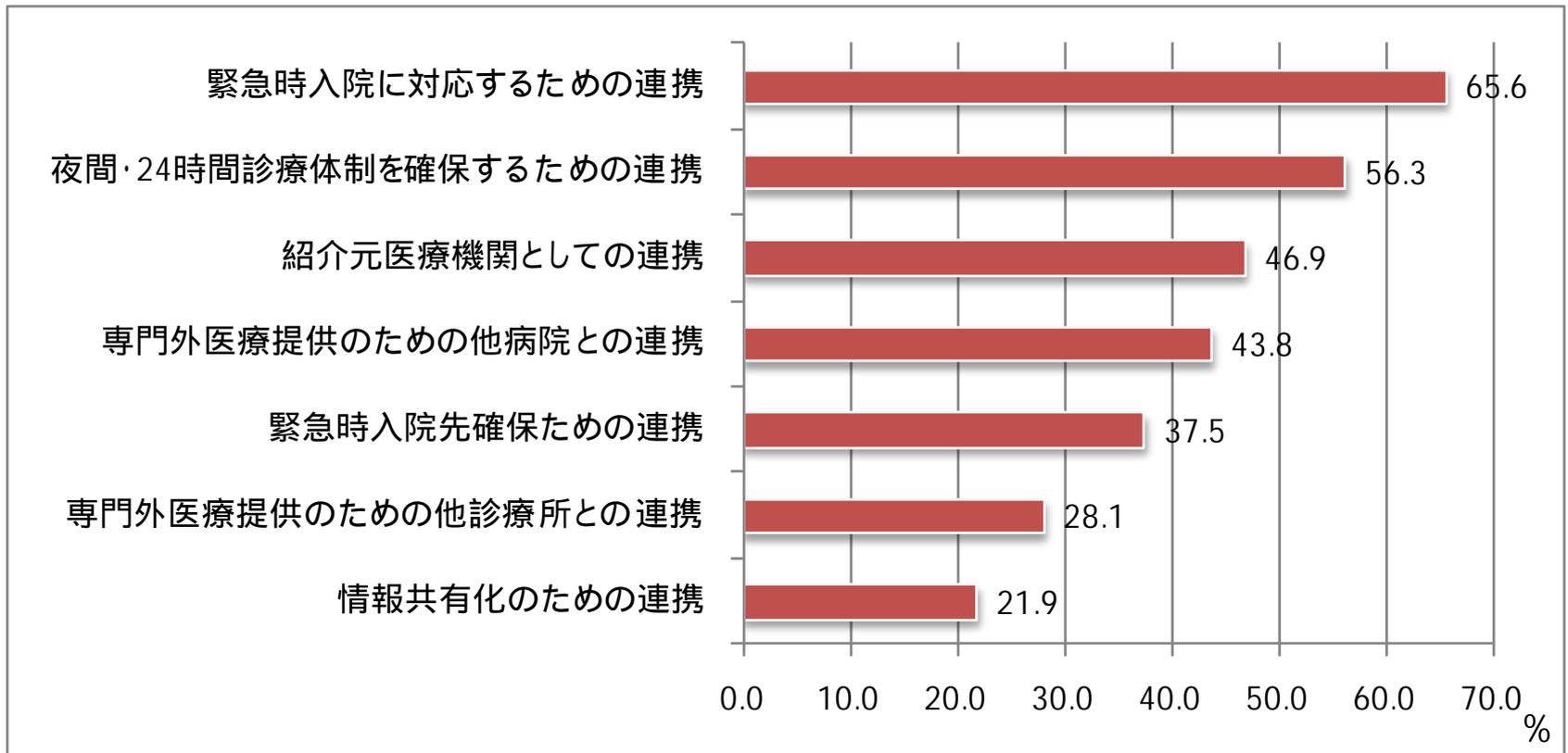


現在の提供できている以上に小児在宅医療のニーズがあるか



小児在宅医療における連携体制

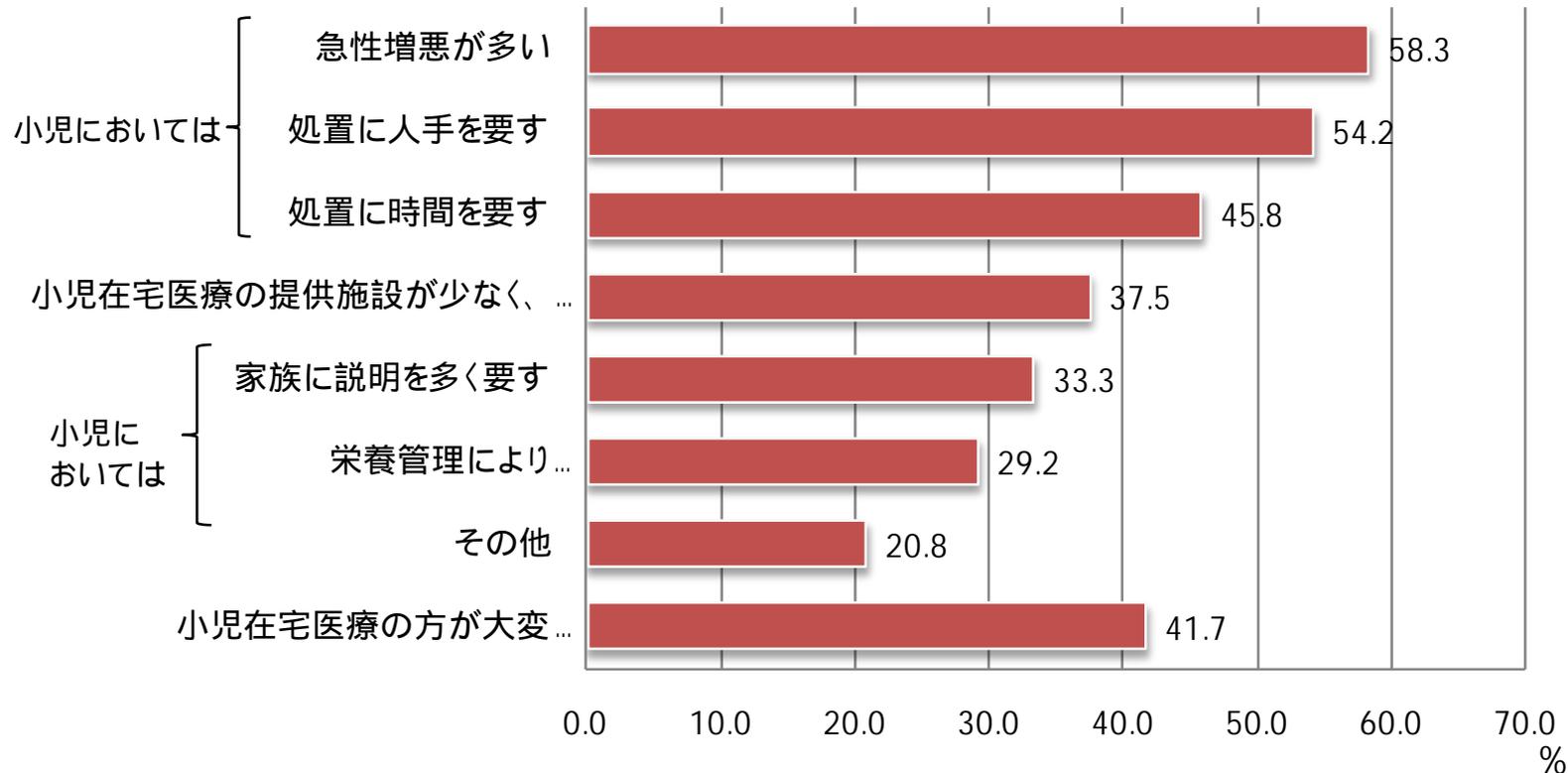
小児在宅医療を提供する医療機関がとっている連携について



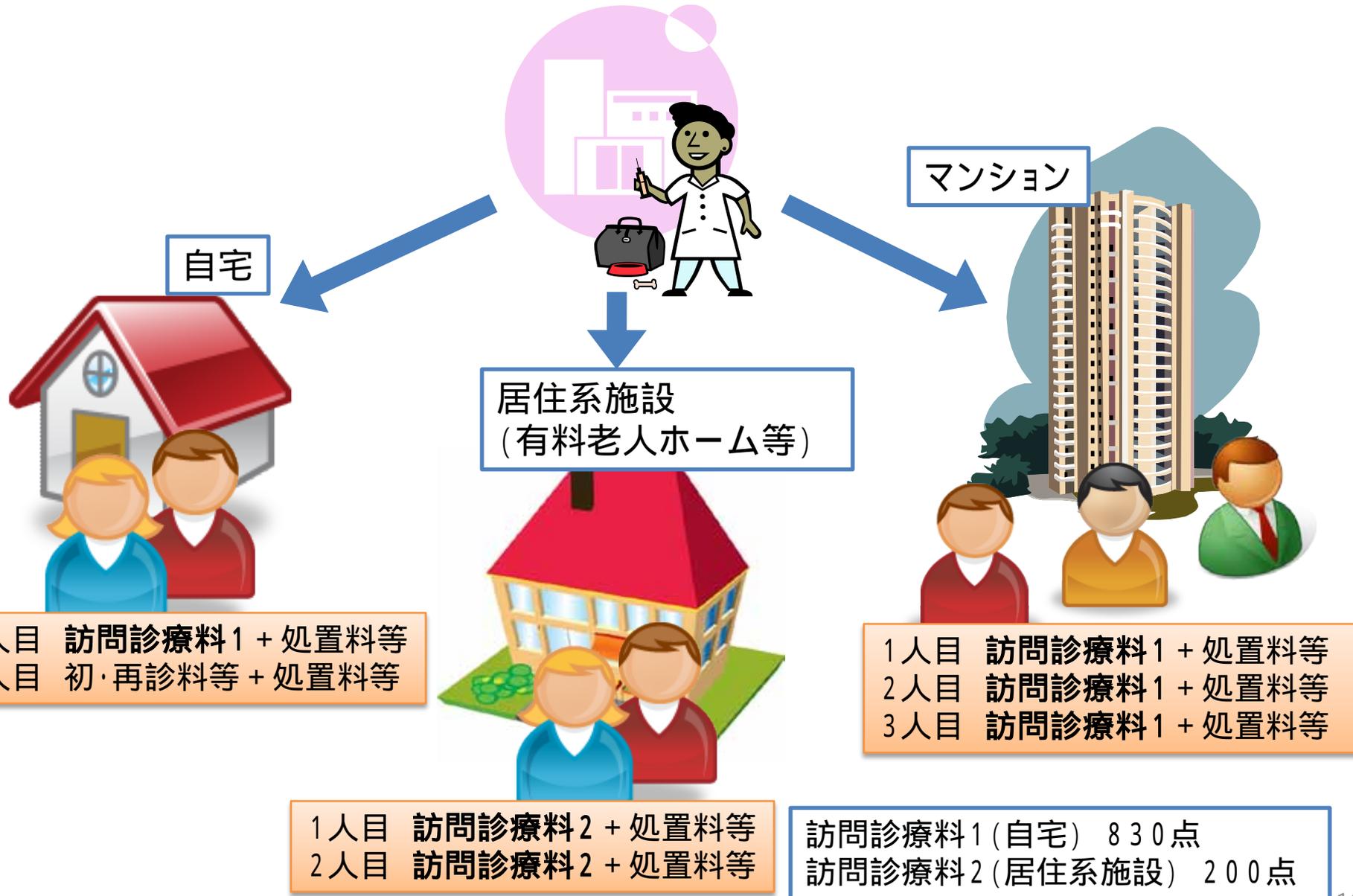
小児在宅医療における困難点

在宅医療を行う医療機関の約6割が小児の方が成人に対する在宅医療より困難な点があると回答

在宅医療における小児と成人の相違点



在宅患者訪問診療料(イメージ)

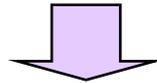


在宅療養支援診療所について

「在宅療養支援診療所」

診療報酬上の制度として、新たに「在宅療養支援診療所」を設け、これを患者に対する24時間の窓口として、必要に応じて他の病院、診療所等との連携を図りつつ、24時間往診、訪問看護等を提供できる体制を構築

在宅医療に係る評価の充実



「在宅療養支援診療所」であることを要件として、在宅医療に係る以下のような評価を充実

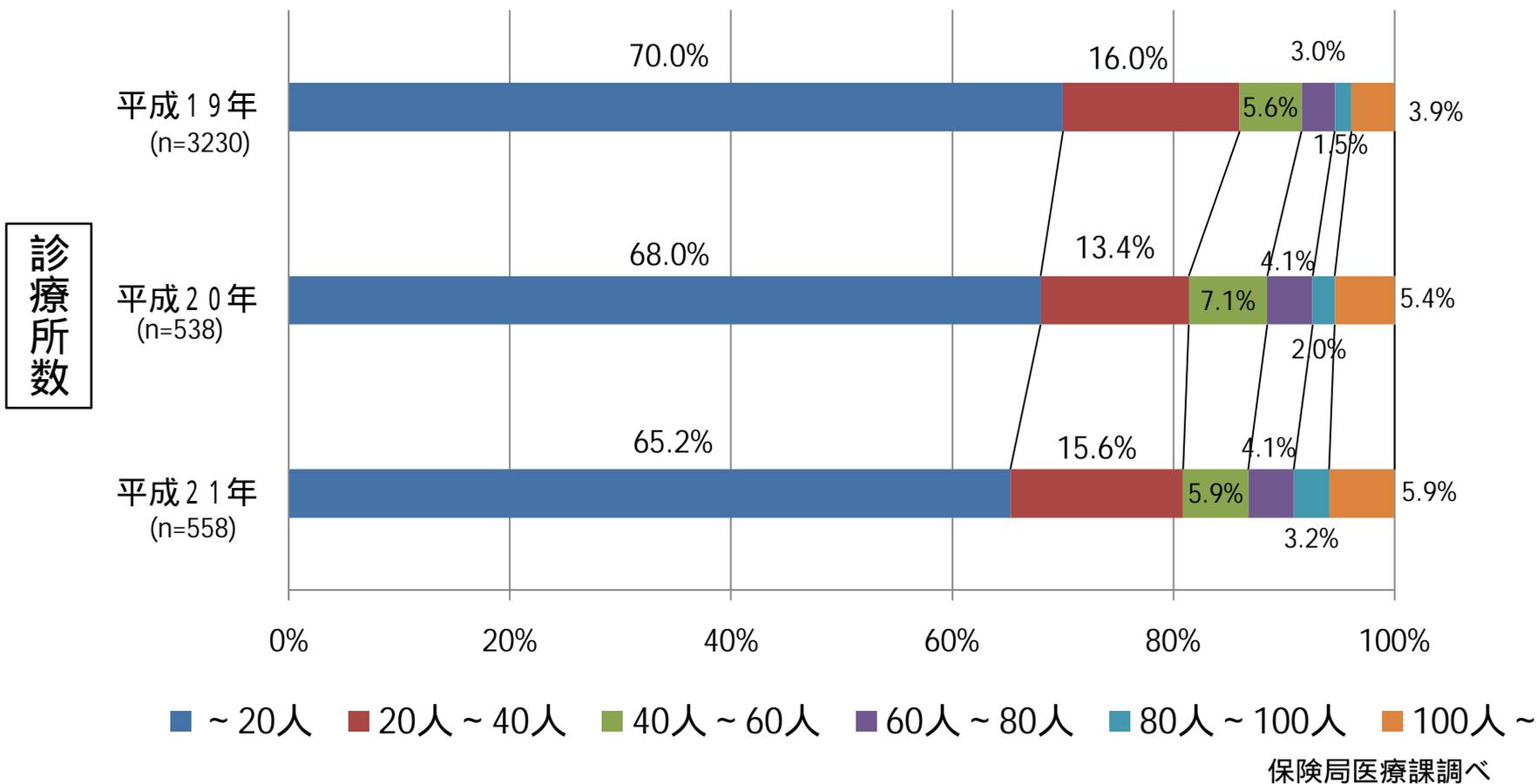
入院から在宅療養への円滑な移行に係る評価

在宅療養における24時間対応体制に係る評価

在宅におけるターミナルケアに係る評価

特別養護老人ホーム等におけるターミナルケアに係る評価

在宅患者の受け持ち数別にみる在宅療養支援診療所数割合



在宅療養支援診療所1施設当たりの在宅患者数は増加傾向にある。